

令和5年度 第1回四万十市子ども・子育て会議 議事録

日 時	令和5年6月7日（水）午後6時00分～午後7時15分
場 所	四万十市役所6階 議員協議会室
出席委員	12名（岡会長、亀井委員、伊與田委員、宮川委員、刈谷委員、久保委員、前田委員、池田委員、福留委員、浅能委員、山崎委員、伊与田委員）
欠席委員	3名（山本委員、宇都宮委員、宮本委員）
事務局	7名（子育て支援課：中脇、濱田、宇都宮、竹内、阿部、宮村、北井）

1 開会

- (1) 委員長挨拶：岡会長より挨拶
- (2) 委嘱状交付：新任委員へ委嘱状を交付（机上への配置）
- (3) 自己紹介：出席委員及び事務局職員の自己紹介
- (4) 会議の成立：子ども・子育て会議条例第6条第2項に基づき会議の成立を報告

2 議事等

- (1) 第2期四万十市子ども・子育て支援事業計画の進捗管理について

ア. 施策の進捗状況確認様式について

今年度は、次期計画に向けて、5ヶ年（令和2年度～令和6年度）の進捗管理を行いたい。進捗管理を行うにあたり定めた様式については、資料①のとおり。

- (2) 第3期四万十市子ども・子育て支援事業計画の策定について

ア. 四万十市こども計画（仮称）の検討について

今後、市は「子ども・子育て支援事業計画」から「こども計画」へシフトしたい。

「こども計画」は、「子ども・子育て支援事業計画」よりも上位の拘束力を持つことが子ども基本法にて示されている。「こども計画」のなかに「子ども・子育て支援事業計画」が含まれた計画の策定を目指す。

「こども計画」は、国が策定する「こども大綱」に沿って定める必要があるが、現在のところ、「こども大綱」や「市町村こども計画策定に関するガイドライン」が示されていない。情報が提示されるまでの間は、「第3期子ども・子育て支援事業計画」策定のスケジュールにより進めたい。今後、国から提供される情報を注視する。

また、令和5年4月1日より、施行された「こども基本法」では子ども自身の声を聴くことが義務付けられており、「こどもの意見」を聴取する方法についても、国から提供される情報をもって検討する。

イ. 第3期四万十市子ども・子育て支援事業計画の策定スケジュールについて

策定スケジュールについては資料③の案のとおり。

策定に向けて、子育て支援関係団体等から聞き取りをする予定。

策定は令和6年度に実施の予定。策定の方法として国からの補助金を活用し、業務を委託する方法も考えられるので検討したい。

ウ. こども計画策定に伴うニーズ調査の実施方法について

計画策定に際し、市民ニーズ調査を行う。ニーズ調査は今年度秋頃の予定。

今後開催する本会議にて、ニーズ調査の質問項目案を提示するので、確認いただきたい。調査の集計・分析等の作業は今年度内に行う。

ニーズ調査の対象者は子どもを養育している保護者。今回の調査は、5年前には行っていなかった中学生の保護者も対象とする。（対象者、実施方法、方針、調査項目は資料④のとおり。）

国のガイドラインに沿った内容とし、答えやすい設問数やレイアウトを検討する。

■出された意見等

○ニーズ調査の方法について

委員 調査は紙媒体だけでなく、インターネットを駆使してはどうか。

事務局 他課が行った調査で紙媒体とインターネットの両方の回答を可能としたとき、紙媒体での回答の方が上回ったという事例がある。回収率を重視して、方法を工夫したい。

○いじめや不登校に関する設問について

委員 いじめ・不登校の定義は曖昧で、回答者によっては文句のはげ口となりかねない。定義を明確にし、何のニーズを捉えたいのかを考える必要がある。

事務局 委員指摘のとおり、本ニーズ調査は個別の課題を掘り起こすものではなく、政策的なニーズを読み取るものである。専門機関等の助言を受けつつ適切な設問を作成したい。

○フリースクール等に関する設問について

委員 不登校の生徒が増えてきていると感じる昨今、フリースクール等のニーズを図るような設問があれば、市としての施策に活かせるのではないか。

事務局 国も色々な方向性を探っており、不登校支援のプランを打ち出しているところである。本調査の中にもフリースクール等に関する設問を取り入れたい。

○子どもの居場所や本調査の意味について

委員 週末や長期休暇の子どもの居場所は現在どうなっているのか気になる場所である。少子化のなか、近所に友達がおらず休日が恐いと感じる子どももいるかもしれない。そういった現状から四万十市のまちづくりを考え、こども計画に投影することができれば、より強靱なものになるのではないか。世相を鑑みつつ、本調査を行う意味やその回答について考えることは重要な事である。

委員 高齢者と子どもが共生できるような四万十市ならではの施策があるとよい。調査において、四万十市の特色を活かした施策を問う等、四万十市らしさを大切にしたい調査になるとよい。

事務局 設問について検討する。

○ニーズ調査の対象者について

委員 調査は高校生本人も対象にいらしてはどうか。自らの育ちを振り返ることができる年齢であり、調査の意義があると思う。

事務局 検討する。

(3) 四万十市保育計画(第3期)の策定について

ア. 四万十市保育計画(第3期)の策定方針について

策定の目的、内容、スケジュール(案)は資料⑤のとおり。

今後、策定方針やニーズ調査の内容等を確定し、調査の実施、関係機関や保護者の意見を受けたうえで計画策定作業に入る。

(4) その他

ア. 「保幼小中連携カリキュラム」の策定について

「保幼小中連携カリキュラム」とは、全ての児童・乳幼児が各年齢段階において望ましいかかわり方をし、生活・学習に取り組むことができるようになる事を目指したもの。

策定にあたっては保育所長会と校長会を合同で行い協議し、策定後は保育施設や学校等が互いに理解し合い、見通しをもって保健・保育・教育を進められるように取り組んでいく。

カリキュラムに基づく子どもたちの育成目標像は、市長と教育委員が開催する総合教育会議にて協議する。これは、本市の子どもたちの育成目標と言えるものとなるため、「こども計画」の基本理念にも反映したい。

また、今後の会においてこの取り組みについて報告をする。

イ. 次回の会議について

次回の会は令和5年8月もしくは9月の予定。